

豚の分離早期離乳技術の利用による肉豚の生産性の改善

畜産試験場

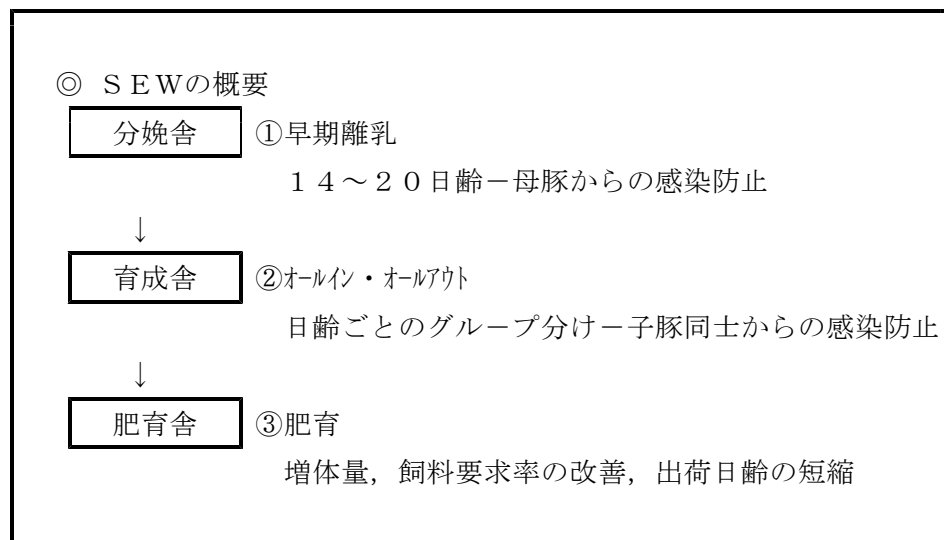
1 取り上げた理由

分離早期離乳（SEW）は子豚を初乳による移行抗体が消失する前に早期に離乳し、母豚から分離する技術で、母豚からの疾病の垂直感染を防ぐことと子豚をグループごとに分けオールイン・オールアウトすることで水平感染を防ぐことの二点により豚の健康レベルを維持し、生産性の向上と経費の節減が図られるため、アメリカではコマーシャル農場レベルで普及が進んでいる。

本技術の本県における利用の可能性について検討するため、場内で分離早期離乳・育成・肥育の一連の試験を実施し、発育の改善効果を認めたので、普及技術とする。

2 普及技術

- 1) 子豚を14日齢から20日齢の早期に離乳する。慣行の4週齢離乳と同様の4週齢時体重が得られる。
- 2) 離乳後は、隔離された育成豚舎で育成することにより、優れた初期発育が得られる。
- 3) 早期離乳した肉豚の出荷日齢は通常離乳のものより1週間程度肥育期間が短縮される。



3 利活用の留意点

- 1) 慢性疾病の浸潤地帯での本技術の導入が有効である。
- 2) 隔離育成豚舎では疾病侵入の阻止のため、子豚のオールイン・オールアウトの厳守、消毒の徹底等の万全の衛生管理が必要である。

(問い合わせ先：畜産試験場種豚家きん部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名および研究期間

課題名 豚の分離早期離乳 (SEW) 技術利用の検討

研究期間 平成8年度～平成10年度

2) 参考データ

a・子豚の体重の推移および各期の1日平均増体量

表1 子豚の体重の推移および各期の1日平均増体量

区分	離乳時期	供試頭数	体重 (kg)			DG (g)		
			0W	4W	10W	0-4	4-10	0-10
1区	14日齢	40頭 (4腹)	1.4 ^{a,b}	7.7 ^a	32.6 ^a	225.5 ^a	591.9 ^a	445.3 ^a
2区	17日齢	34頭 (3腹)	1.3 ^b	5.6 ^b	27.2 ^b	166.8 ^b	534.3 ^b	387.3 ^b
3区	21日齢	34頭 (4腹)	1.5 ^a	7.5 ^a	32.0 ^a	215.5 ^{a,b}	581.7 ^a	435.2 ^a
対照区	28日齢	30頭 (3腹)	1.4 ^{a,b}	7.2 ^a	25.5 ^c	208.0 ^a	435.7 ^c	340.9 ^c

行間の異符号間で有意差 (P<.05)

b・離乳後の死廃事故率

表2 離乳後の死廃事故率

区分	離乳日齢	頭数	事故率 (%)
1区	14日齢	40頭	0 (0/40)
2区	17日齢	34頭	0 (0/34)
3区	21日齢	34頭	0 (0/34)
対照区	21日齢	31頭	3.2(1/31)

c・肉豚の出荷成績

表3 肉豚の出荷成績

区分	離乳日齢	出荷頭数	出荷日齢(日)	背脂肪厚(mm)	格付け成績*	販売金額(円)
1区	14日	15頭	175.3±17.5 ^a	1.8±0.4	1.7±0.8 ^a	30901±2946 ^a
2区	17日	25頭	179.4±9.3 ^a	1.9±0.5	1.4±0.9 ^a	31398±3143 ^a
3区	21日	29頭	182.7±14.0 ^{a,b}	1.6±0.6	2.0±0.9 ^{a,b}	29689±3994 ^{a,b}
対照区	28日	25頭	187.3±9.6 ^b	1.6±0.6	2.1±0.8 ^b	28985±3140 ^b

行間の異なる文字間で有意差あり (P<.05)

*上:1, 中:2, 並:3で数量化

3) 発表論文等

なし